

令和 5 年 6 月 1 日

嬉野市議会
議長 辻 浩一 様

文教福祉常任委員会
委員長 諸井 義人

文教福祉常任委員会報告書

令和 5 年第 1 回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 107 条の規定により報告する。

付託事件名 「福祉について」

調査の理由

児童養護施設、高齢者や障がい者の介護サービスを提供している社会福祉法人済昭園を訪問し、地域包括ケアシステムの構築を目指す関係機関との連携など現場の現状や課題を探り、これからの嬉野市の福祉行政の向上につなげるため。

調査の概要

社会福祉法人済昭園の福祉事業について

調査日 令和 5 年 4 月 14 日（金）10 時から 12 時まで

場 所 社会福祉法人済昭園（塩田町）

対応者 社会福祉法人済昭園 事業部長（老人福祉）馬場 昇 氏
社会福祉法人済昭園 財務担当部長 野嶋 真裕 氏
社会福祉法人済昭園 事業部長（児童福祉）小佐々 太郎 氏

1. 社会福祉法人済昭園の概要

緑と清流に囲まれた閑静な吉浦の里にある社会福祉法人済昭園は、昭和 3 年に身体が不自由なお年寄り、薄幸な子どもや戦災孤児を受け入れる養老院として創設された。以来 95 年にわたり、創立者の祖伝尼の崇高な遺志は現在も

済昭園の理念となり受け継がれている。現在では、児童養護施設をはじめ、高齢者施設を展開され、入所事業だけでなく地域住民のための在宅福祉事業も行っている。児童福祉施設、高齢者福祉施設など 19 の拠点を構え、地域福祉において総合的に様々なニーズに対応している。

2. 児童養護施設の現状及び課題

- (1) 様々な事情の子どもたちに対応するために、本園のほかに地域小規模児童養護施設「華」、分園型小規模グループケア「大樹」に分かれて生活している。
- (2) 定員 35 名で、現在 24 名の子どもたちが生活している。
- (3) 令和 4 年の児童福祉法等の一部を改正する法律を受けて、子ども家庭センターの設置とサポートプランの作成が急がれている。

3. 高齢者福祉の現状及び課題

- (1) 高齢化率の上昇だけでなく、生産年齢人口の減少や少子化による将来人口減少が問題である。
- (2) 多様で複雑な福祉ニーズに対応するための担い手が不足している。
- (3) 人材不足により、職員体制の確保と事業の維持が厳しくなっている。

4. 職員の研修体制について

- (1) 今年度の新規採用職員 7 名、昨年の中途採用職員 16 名を対象に新人研修を 6 か月間実施している。(主に職務の基礎や日常業務の自立について)
- (2) 全体研修を各事業所にて年 4 回実施し、認知症ケアや看取りケア等を年間研修計画で実施している。また、県内外での研修にもオンライン研修として積極的に参加している。

5. 職員の確保について

- (1) 済昭園のホームページに職員採用専用ページを業者に依頼して作成している。職員をモデルにして、楽しく働きやすい職場の雰囲気や福祉介護の専門性、先進的取り組み情報を発信している。
- (2) 高校生の実習を受け入れ、地元出身者の積極的な採用活動を行う。現在職員 250 名中地元出身者は約 4 割。また、外国人研修生 4 名を受け入れている。

6. 委員会の意見

今後、嬉野市においても人口減少及び高齢化率の上昇が予想される。高齢者

福祉、介護福祉や児童福祉政策がますます重要となってくる。国は様々な施策を打ち出しているが、嬉野市においても誰一人取り残さないような対応が必要となってくる。地域包括ケアシステムを嬉野市に合ったシステムとして、構築していくことが急がれる。住まい・生活支援・介護・医療・予防が一体となったシステムの構築は、自助、共助、公助がそれぞれに機能しあってこそ効果が現れる。今後は、地域コミュニティや老人会等への市民の積極的な参加を促し、福祉施設や医療機関との連携を図りながらの更なる福祉施策が必要と考える。